

# 義肢装具体験イベント 開催報告書

vol.06  
2019.7

## 第6回 『義肢装具体験イベント』

第6回となる「義肢装具体験イベント」を、2019年6月15日(土)に東京都西東京市立保谷中学校にて開催いたしました。

当日は、学校公開の場を利用して1時間目～3時間目までの時間割で、

- ①「障がいのある方々と義肢装具士の関わり(講義)」
  - ②「義肢・装具の装着体験」
  - ③「義足ユーザーとの交流」
- の3つのプログラムを、中学校1年生とのびる組の生徒とその保護者、教職員を対象に実施いたしました。



### 主なプログラム

総勢180名の生徒達に、(公社)日本義肢装具士協会 障がい者/パラアスリート/PO啓もうWGと東日本支部から、24名がスタッフとして対応しました。それぞれのプログラムについて解説いたします。

### 講義「障がいのある方々と義肢装具士の関わり」

「障がい者・パラアスリート」と、その方々を支援する義肢装具士の職業について、理解を深めてもらう事を目的に講義をしました。また、講義に続いて代表の生徒をモデルに下肢、体幹、足底と3種類の採型デモンストレーションを実施しました。

ほとんどの生徒が初めて見る採型作業に興味津々に様々な角度から見入っていました。質疑応答では義肢装具や義肢装具士に関する沢山の質問があり、活発な意見交換が行われました。



<講義の風景>



<生徒への採型デモンストレーション>



## 義肢・装具装着体験

体験用装具や模擬筋電義手等を装着することで、「障がい者や高齢者の動作の不自由さ」「筋電義手の操作」を実際に体験してもらう事や、身体的負担を体感することで、その理解とボランティアマインドの育成を目的としました。

下肢装具・膝装具を装着しての歩行や、体幹装具・頸椎装具を装着しての動作、高齢者の疑似体験用装具を装着して床から立ち上がり動作や歩行、模擬筋電義手を装着して手指の開閉操作や紙コップの把持など、様々な義肢装具の装着を体験してもらいました。多くの生徒達は初めての体験に驚きと、身体的負担の多さを感じていました。

イベント後に実施した生徒達へのアンケートの感想からは、プログラムを通じて障がいのある方々や高齢者の不自由さを実感するだけではなく、その方々を見かけたら自発的に手助けをする心を養えたことが実感出来ました。



＜高齢者の動作体験＞



＜筋電義手の操作体験＞

## 義足ユーザー交流

今回は義肢装具士でもあり大腿義足ユーザーの方と、義肢装具士の養成校学生で下腿義足ユーザーの方に参加協力して頂きました。ユーザーと交流することにより、実際に向かい合い言葉を交わす事で「障がい者」理解を深めてもらう事を目的としました。

ユーザーとの質疑応答では、義足の装着方法等の基本的な事から、日常生活に関する疑問点についての質問が挙がりました。その後、床での座位やあぐらの取り方、小走りなどのパフォーマンス、バドミントンやバスケットボールを生徒達と一緒にやり、交流を深めました。生徒はユーザーのパフォーマンスや義足の機能を目の当たりにして、義足に対する印象が一変していました。ユーザーはみんな苦しい顔をしていると思ったけど、楽しくスポーツに挑戦している姿はとても素敵でしたとの感想が得られました。



＜義足ユーザーとの質疑応答場面＞



＜生徒とバスケットの場面＞



## 総括

イベント開催後に実施したアンケート結果では、全体の約97%が体験イベントへの参加に満足しているとの回答を得ました。また、プログラムの中では実際に体感出来る「義肢・装具の装着体験」に最も興味を持っていただけたようです。パラリンピックを会場やテレビで観戦したいと思った生徒は全体の約78%の回答でした。

今まで義肢関係のテレビは怖くて観ることが出来なかった生徒も、今回の体験から積極的に応援したいとの感想を述べていました。

今回で「義肢装具体験イベント」の開催は6回目となりましたが、多感な年代に「障がい者・パラアスリート」、その方々を支援する義肢装具士の業務を伝える事は、「障がい者理解」や「ボランティアマインドの育成」、「義肢装具士の理解と職業選択」に通じる非常に大切な啓発活動であると考えます。当協会では、これからも積極的に公益目的事業に取り組んで参ります。

### アンケート(生徒の記述感想)

- ・ 義足ユーザー交流で、義足でも健足と同じように走っていて凄いと思いました。
- ・ 高齢者疑似体験で、高齢者の気持ちが分かりました。これからはいつも席を譲りたいです。
- ・ 義手ユーザーの人は生まれつき腕がなく、義手をつけて電流を送るだけで動かせるというのが凄い技術だと思った。
- ・ 障がいにも、いろいろな種類がある事が分かった。義足や義手の事も良く分かった。
- ・ 自分の手や足がある事が、とても幸せなんだなあと思った。
- ・ 組み立てのとき、「義肢を作るのってこんなに大変なのだ」と思いました。
- ・ 障がい者の方がもっと楽に、一般の人と同じ生活が出来るとなったらいいなと思いました。
- ・ 足などが不自由なのに、パラリンピックなどを目標にしていると思うし、今までオリンピックは見ていたけど、パラリンピックはあまり見ていなかったから見ようと思いました。
- ・ 今回の事で、やっぱり義肢装具を付けている人たちは大変だけど、その生き様はとてもカッコよくて見習うべきだと思いました。